

四万十川と共存するツルの里づくり事業

1 社会資本の概要

中筋川は、高知県宿毛市の白皇山（標高458m）を源とし、横瀬川、ヤイト川、山田川等の支川を合わせ中筋平野を東流しながら、「日本三大清流」のうちのひとつとして全国的に有名な四万十川へ合流しています。



代表的な中山地区

今回の受賞対象となった「ツルの里」は、この中筋川流域において、陸地化していた河畔の樹木を伐採、根茎除去して切り下げ、中筋川に水辺の湿地、エコトーンが再生できる環境を整備したものです。治水上の安全性が確保されるとともに、湿地にマコモなどの水生植物や、ミズレヌマエビやドジョウなどの湿地生物が生育・生息するようになりました。また、それらをえさとする水鳥も多く飛来するようになり、水辺本来の生態系が再生されています。



ツルの里（中筋川中山地区）

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平成13年環境省などが中心となり鹿児島県出水市で集中越冬していた絶滅危惧種のツル類を分散させ伝染病等による絶滅を防ぐ「ナベヅル・マナヅル分散プロジェクト」が始まりました。

本会の地元である中村市（現四万十市）がこの検討地となったことをきっかけに、行政と連携し平成18年3月に当会を設立し、ツルが安心して過ごせる里山環境づくりをはじめました。

おもな取組としては、① ツルのえさ場・ねぐらづくり、② ツルの飛来状況などの調査、③ 地域住民

の理解促進を図る啓蒙活動の推進（地元小中学校によるツルの体験学習会、つるの里祭り、ワークショップ、会報の発行など）を行っています。

創意工夫としては、20年近く休耕田であった地区をつるのえさ場・ねぐらづくりに活用するため、約40名の地権者と交渉し当会自ら休耕田約6haを借りた活動もしているほか、地元と協働して活動を進めアピールを続けた結果、いまでは毎年決まった団体から寄付金が集まるようになりました。



もみまきする地元小学生



つるのデコイ（模型）を設置

3 地域への成果や波及効果等

平成21年度にはじまった「四万十つるの里祭り」ではツルの写真パネル展、野鳥の巣箱づくり体験、山口県周南市八代地区の「つるの里米作りの取り組み」のセミナー、ツル食堂、太鼓の演奏などイベントも多く用意した結果、郊外の会場でありながら、平成25年の5回目には、来場者も約800人となるなど、地域とともに発展しています。

また地域の方のツルおよび環境への保護意識もかなり向上し協力的になっており、地元根ざした活動へと進化しております。



多くの人で賑わう「つるの里祭り」



写真パネル展にも多数の人



●受賞者

四万十つるの里づくりの会
代表 武田 正

●コメント

大変重い賞をいただきまして、今後一生懸命この賞に恥じないようにやっていきたいです。
子供たちが将来「いい所に住んでよかったな」と言えるような環境のよい地域づくりも推し進めていきたいと思っています。

●活動内容

- ・つるのえさ場・ねぐら整備
- ・四万十つるの里まつりの開催
- ・子供たちへの環境学習

●活動の経緯

- | | |
|-------|--------------------|
| 平成18年 | 四万十つるの里づくりの会設立 |
| 平成19年 | つるの越冬地整備・休耕田借り上げ開始 |
| 平成22年 | 第1回 四万十つるの里祭り開催 |
| 平成26年 | つるのシンポジウム in 四万十開催 |

所在地

高知県四万十市中山・江ノ村地先

活動主体及び連絡先

四万十つるの里づくりの会
（事務局：中村商工会議所 0880-34-4333）
※功労者名：澤田 佳長

対象となる社会資本

一級河川中筋川
※管理者：国土交通省四国地方整備局
中村河川国道事務所（代表：0880-34-7301）



手づくり郷土賞について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

手づくり郷土賞について

講評

大賞部門

一般部門

資料集